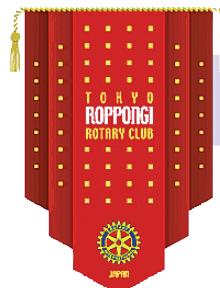


# TOKYO ROPPONGI ROTARY CLUB

東京六本木ロータリークラブ



## 『エンジョイロータリー』

~Enjoy Rotary~

東京六本木ロータリークラブ会長

## WEEKLY REPORT

『夢をかたちに』

～Make Dreams Real～  
国際ロータリークラブ会長

発行日 2009年3月2日

No. 27

### タイ・ミャンマー難民キャンプ支援活動



UNHCR<国連高等難民弁務官事務所>は、1950年に設立された機関で、世界中の3,170万人と言われる難民を支援する機関です。ロータリー財団奨学生でもあった緒方貞子さんは、この機関の第8代代表を務めております。UNHCRは1954年と1981年にノーベル平和賞を受賞しており、本部はジュネーブ、世界中で6,300人の職員が120カ国で援助活動を行っております。

★当クラブのスポンサークラブである東京西口ロータリークラブからの呼びかけで、UNHCRが必要とする支援計画に当クラブは西口ロータリークラブと一緒に協力する事を昨年9月の理事会で決定しました。

タイ国とミャンマー国の国境近くにある二つの難民キャンプへ拡声器を寄贈することがその目的です。簡便で低廉な伝達手段として拡声器が必要とされています。

★2月16日の例会時にお招きして卓話をお願いした根本さんは、「日本UNHCR協会」の理事・事務局長を務められております。

★当日根本さんはパワーポイントで現地での拡声装置の設置報告をされました。改めて週報で会員の皆さんに報告致します。

#### ☆設置場所

タイ国北東部に位置するメーホンソン、2か所の難民キャンプ

- ・メーラマルラン キャンプ（人口10,300人） 19か所に拡声器を設置
- ・バンマイナインソイ キャンプ（人口18,100人） 10か所に拡声器を設置

#### ☆背景

1948年以来続いているミャンマー政府軍とカレン族など少数民族との間の紛争とミャンマー国内で起きている人権侵害が原因で、1984年にミャンマー難民がタイに流入しました。タイ国内にはミャンマーとの国境近辺に9つの難民キャンプがあり、約14万人の難民が生活をしております。UNHCRはタイ政府や難民キャンプ委員会、約10の現地NGOと協力して、食糧、水、衛生、医療、教育、安全などの分野で難民を援助しています。2005年から北米や欧州諸国への第3国定住が始まります。  
(この項目は現地所長古川さんからの報告による)

※現地からの報告書全文は、ホームページに掲載しています。

以上概要ですが、今回の難民支援プロジェクトの報告です。  
会員の皆さんの更なるご理解ご協力をお願い申し上げます。

2009年2月24日  
会長 浅田 豊久



東京六本木ロータリークラブ

TOKYO  
ROPPONGI  
ROTARY CLUB



平成21年2月16日  
卓話『国連の難民支援を仕事として』  
日本UNHCR協会 事務局長  
根本 かおる 様



皆さん、こんにちは。私、国連難民高等弁務官事務所の職員となる前、お隣のテレビ朝日でアナウンサー、報道記者をしておりましたので六本木は思い出の場所です。その場所で皆さんにお話できることをとてもうれしく思っています。また日ごろから国連難民高等弁務官事務所の活動にご支援をいただき、改めてお礼を申し上げます。

国連は1951年に採択した条約で、人種、宗教、国籍もしくは特定の社会集団の構成員であること又は政治的意見、民族、宗教を理由にして迫害、脅迫など深刻な人権侵害を受ける恐れがあるため、他国に逃げて保護を求めている人達のことを難民と定義しています。また同様な理由で故郷を追われながら国境を越えられず避難生活を続いている人達のことを国内避難民と呼んでいます。UNHCRが支援している難民は全世界で1,150万人、国内避難民は1,300万人です。それから最近、例外的ですが大きな自然災害の被災者を支援する活動にも関わるようになりました。昨年、大きなサイクロンがミャンマーを襲った際も、中国の地震の際も要請を受けて援助活動を行いました。

UNHCR国連難民高等弁務官事務所の本部はジュネーブにございます。およそ120ヶ国で活動しており、それを支えるのは6,000名を超える職員です。そのうち日本人はおよそ70名、その3分の2が女性です。なぜ女性が多いのかというと、一つには緒方貞子さんが90年代トップを勤めたことに触発された日本人女性が多かったであろうこと。様々な国籍、バックグラウンドを持った人達が難民を助けるといった多様性が大切な職場なので女性が働きやすいこと。また難民の8割が女性と子どもで、女性であることが難民と触れ合うとき非常にメリットになることなどがあるのではないかと思います。

その活動は大きく3つのフェイズに分かれます。まずは紛争或いは深刻な人権侵害を受けて逃げてきた人達。着のみ着のままで逃げてくるので、この人達に住む場所、食料、水を与える緊急支援。次に、この人達が故郷に戻れるまでの間、その生活を支えていく中長期的支援。子ども達のためにキャンプの

中に学校を作ることもございます。また難民の中には目の前で家族を殺された、逃げる過程でレイプされたという女性もいます。そういう心に大きな傷を持った人々のトラウマに目を向けながらカウンセリングを行う、或いは経済的な自立を促進するための職業訓練、故郷に帰る場合は、戦争ですたずたになったインフラや家を整備することも大切になっています。物質的な支援だけでなく、一時は憎しみあい殺しあった民族がもう一度一緒に暮らしていくよう、対話の糸口を作つてやることも大切な仕事です。さらには故郷に帰れない人のために第三国に第二の故郷を見つけてあげるよう橋渡しをすることも大切になっています。私は12年に亘ってこの難民支援の最前線におり、3つのフェイズすべてに関わることができました。

ヒマラヤの小さな王国ブータンは牧歌的なイメージの国ですけれども、そのブータンが人口の6分の1を国から追放し、その人達がいまだ避難生活を送っていることは知られていません。この難民問題の背景ですが、19世紀、ネパールからブータンに多くの人々が経済的な理由で移住しました。1950年代半ばには国籍法が改正され、この人々にもブータン国籍が与えられました。ブータンの主流派の人達は私達のような顔をしていて宗教は仏教が中心、ネパールから移住した人達はヒンズー教が中心で、顔もインドアーリア系の彫りの深い顔をしています。このネパール系の人達の方が人口増加率が高く、数の上で主流派を脅かすようになったことに危機感を覚えたブータンの王様が再度国籍法を改正し、一度付与した国籍を剥奪する動きに出ました。民主化要求運動なども起こり、弾圧があって、10万人を超える人々がネパールに避難しました。難民は、ジャングルを切り開いて作った難民キャンプで、もう17年にわたって避難生活を送っています。私はこの7つのキャンプに住む10万人余りのブータン難民に対する支援活動を取



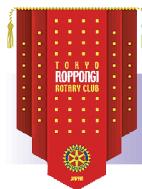
りまとめる事務所の所長を1年半に亘ってしておりました。子ども達にとって心の支えは教育です。小学校、中学校はキャンプの中にある学校に通い、高校は地元の学校に行きます。しかし問題は、いくら勉強をしても、その後きちんと職業に就く権利がネパール政府から与えられないことです。就ける仕事は道路工事や建設現場の仕事、収穫時の手伝い程度しかありません。キャンプは仕事に就くことができない若者たちで溢れています。私はこの若者たちに意味のある活動を提供したいと思い、若者達に考えてもらいました。お金はあまり無いけれど何をしてもらいたいか。彼らは言いました。7つあるキャンプそれぞれに難民若者センターを作り、その企画運営を任せてほしい。幸いこういったことを専門に手がけているネパールのNGOとパートナーシップを組むことができ、核になる若者達にリーダーシップ研修を行い、その上で企画運営を任せることができました。どういった活動をしてくれたかというと、その1つに12月1日、世界エイズデーにキャンプで行ったエイズ撲滅のための啓発運動があります。コンドーム君対エイズウィルス君の寸劇で、自分達で考え、子ども達の前で披露しました。

タイでは80年代から少数民族カレン族を中心に隣のミャンマーから多くの人々が難民となって流入し、今も9つのキャンプで14万人が暮らしています。これはネパールのブータン難民と並んでアジアで最大規模の、最も長期化した難民状況の1つです。そこに六本木ロータリークラブ様、東京西ロータリークラブ様からの温かいご支援で、多くの拡声器を届けることができました。タイのメーホンソン事務所長の古川麗さんから皆さまに手紙が届いておりるので、紹介させていただきます。「六本木ロータリークラブの皆さま、このたびはタイのバンマイナイスイ難民キャンプ、メーラマルアン難民キャンプに拡声器購入のための援助をいただき、ありがとうございました。購入された計29個の拡声器は昨年10月、難民自身によって広大なキャンプのあちこちに設置され、人々の生活に大変役立っています。メーホンソンでは国境沿いに広がるジャングルに隔離されていることもあります、電気も電話もありません。支援物資の配給など人々の暮らしに関わる様々な情報は掲示板や各地区の自治会班長による口頭伝達などに頼ってい

ます。しかし自然災害警報など緊急を要する広報に最も効果が高いのは地区ごとに取り付けられた拡声器です。読み書きができないても理解でき、広域に迅速に情報を流すことができるからです。一方、難民達が故郷に帰れる目処が立たない中、2005年から北米やヨーロッパ諸国への第三国定住が始まりました。出発までには定住国の政府職員との面接や健康診断など様々な手続きを所定の日に所定の場所に出向いて済ませなければなりません。このための連絡に拡声器を使った呼び出しが効果をあげています。再三難民側から出されていた要望によく応えることができ、とてもうれしく思っています。事務所を代表して深くお礼申し上げます。」UNHCRタイ・メーホンソン事務所所長の古川麗さんからのメッセージです。

最後に日本と難民について触れさせていただきます。UNHCRの活動資金は、政府が任意で拠出してくださる拠出金と、一般の個人、団体、企業の寄付金から成り立っています。政府からの拠出で日本はアメリカに次いで世界2位ですが、日本が難民条約を批准した1981年から2007年までの26年間で、日本政府から難民認定された人の数は合計451名、世界で百数十位に過ぎません。しかしトレンドとしては段々開国に向かっていて、自分を難民と認めてほしいという人も認定を受ける人の数も増えています。昨年の12月、トップのグテーレス国連難民高等弁務官が日本を訪れ、麻生総理大臣と会談した際、総理大臣から2010年度から試験的に第三国定住に踏み切るとの表明がございました。これはアジアの国としては初めての例になります。1年で30名を3年続け、これを試金石にして本格的に第三国定住に踏み切る。今回受け入れられる難民たちは何とタイに住むミャンマー難民です。もしかすると皆さまからご寄贈いただいたあの拡声器で第三国定住に関する情報を聞いた人達がやってくるかも知れません。

UNHCRのロゴマークの意味は人を守る人の手です。私ども日本UNHCR協会はUNHCR国連難民高等弁務官事務所の国内委員会として、広報、寄付、募金の呼びかけを行っております。日本でもこの人を守る人の手がどんどん増えていくことを願ってやみません。ご協力お願いいたします。ご清聴ありがとうございました。



### ■ ニコニコBOX情報

懸野 直樹さん(京都西南RC)

本日はお世話になります。

渡辺 美智子さん

浅田会長、齋藤幹事、山中副会長はじめ皆々様、  
グアムでは大変お世話になりました。楽しく過ご  
させて頂きました。

小西 恭子さん

今日は寒いです。皆様お大切に!

齋藤 明子さん

無事グアム地区大会より戻りました。お疲れ様で  
した!

安間 百合子さん

石浦先生、本日はありがとうございます。多くの  
人が気になっている認知症の予防法をうかがえ  
ると楽しみにしております。

浅田 豊久さん

片岡雅敦さん社長就任おめでとうございます。  
頑張って下さい。

大橋 寛治さん

本日は会場が手狭まで申し訳ございません。

岡田 達雄さん

本日は、第1回創立5周年記念事業実行委員会が  
開催されます。宜しくお願ひします。

竹内 和弘さん

あと1ヶ月今年度の締めくくり頑張りますー。

松島 正之さん

片岡雅敦さん、社長ご就任おめでとうございます。  
益々のご発展を祈念します。

山中 祥弘さん

グアム地区大会、浅田団長を中心に、楽しく充実  
した体験となりました。感謝。

松木 隆央さん

片岡さん、代表取締役社長ご就任おめでとうござ  
います。益々のご活躍を!!

苅田 吉夫さん

2月は逃げるといいますが、あつという間に過ぎま  
したね。

### ■ 本日のプログラム

平成 21年 3月2日

卓話『決断力を磨く』

将棋棋士

羽生 善治 様

#### プロフィール

昭和45年

埼玉県所沢市出身。

6歳から将棋を始める。

昭和57年

6級で二上達也九段に入門。

昭和60年

四段に昇段。

平成元年

初タイトル竜王を獲得。

平成 8年

タイトル七つを同時に獲得し、七冠王に

なる。

主な著書に『羽生の頭脳 1-10』(日本将棋連盟)

『決断力』(角川書店)がある。

### ■ 次回のプログラム

平成 21年 3月9日

卓話『当社のTN展開』

SMK株式会社 取締役会長

池田 彰孝 様

### クラブからのお知らせ

2月23日例会より

会長

- 2月18日から21日までの日程でグアム地区大会に、  
当クラブは7名で参加して参りました。とても心に  
残る大会でした。

- 2月22日、江戸城再建を目指す会の総会が行わ  
れました。



渡邊 滋さん

まだまだ寒いですね。

「日あたりのよき部屋一つ冬籠」 正岡子規

2月23日 合計 64,000円  
累計 2,430,000円

### 東京六本木ロータリークラブ

会長 浅田 豊久 幹事 齋藤 明子

事務局》〒106-0032東京都港区六本木6-10-3グランドハイアット東京内 TEL:03-4333-8773 URL:<http://www.tokyoroppongi-rc.jp/>

広報・週報  
委員長

片岡 雅敦

広報・週報  
委員長

安井 悅子